紫外線除去フィルムを核とした
葉ネギ害虫の減農薬防除体系

病害虫部

1　背景、目的

食の安全・安心が求められる中で、「博多万能ねぎ」に代表される葉ネギ栽培においても減農薬防除体系の確立が求められています。そこで、紫外線除去フィルムを導入した減農薬防除体系を構築しました。本体系は、薬剤散布回数が慣行栽培に比べ大幅に削減できるうえ、葉ネギの主要害虫であるネギハモグリバエ、ネギアザミウマおよびチョウ目害虫に対し高い効果があるため、生産現場での飛躍的な普及が期待できます。

2　成果の内容、特徴

1）紫外線除去フィルムを導入した本防除体系では、薬剤散布回数を慣行防除体系より大幅に削減できます（図１、一部データ略）。

2）この防除体系のポイントは以下のとおりです。

①紫外線除去フィルムは、ネギハモグリバエやネギアザミウマが行動に利用している360～380nm付近の紫外線領域が除去されるものを使用します。

②紫外線除去フィルムには、害虫の施設内への侵入を防止する効果と施設内での移動・分散を抑制する効果がありますが、殺虫効果はないので、ネギハモグリバエやネギアザミウマが既に発生している場合は薬剤防除により密度を一旦下げてからフィルムを導入します。

③その後は、害虫の発生に応じて薬剤防除を実施します。

3）この防除体系を実施すれば、ネギハモグリバエ多発条件下においても、ネギハモグリバエの被害はほとんど発生しなくなり、シロイチモジヨトウなどのチョウ目害虫やネギアザミウマの被害も低く抑制できます（図１）。

3　主要なデータなど

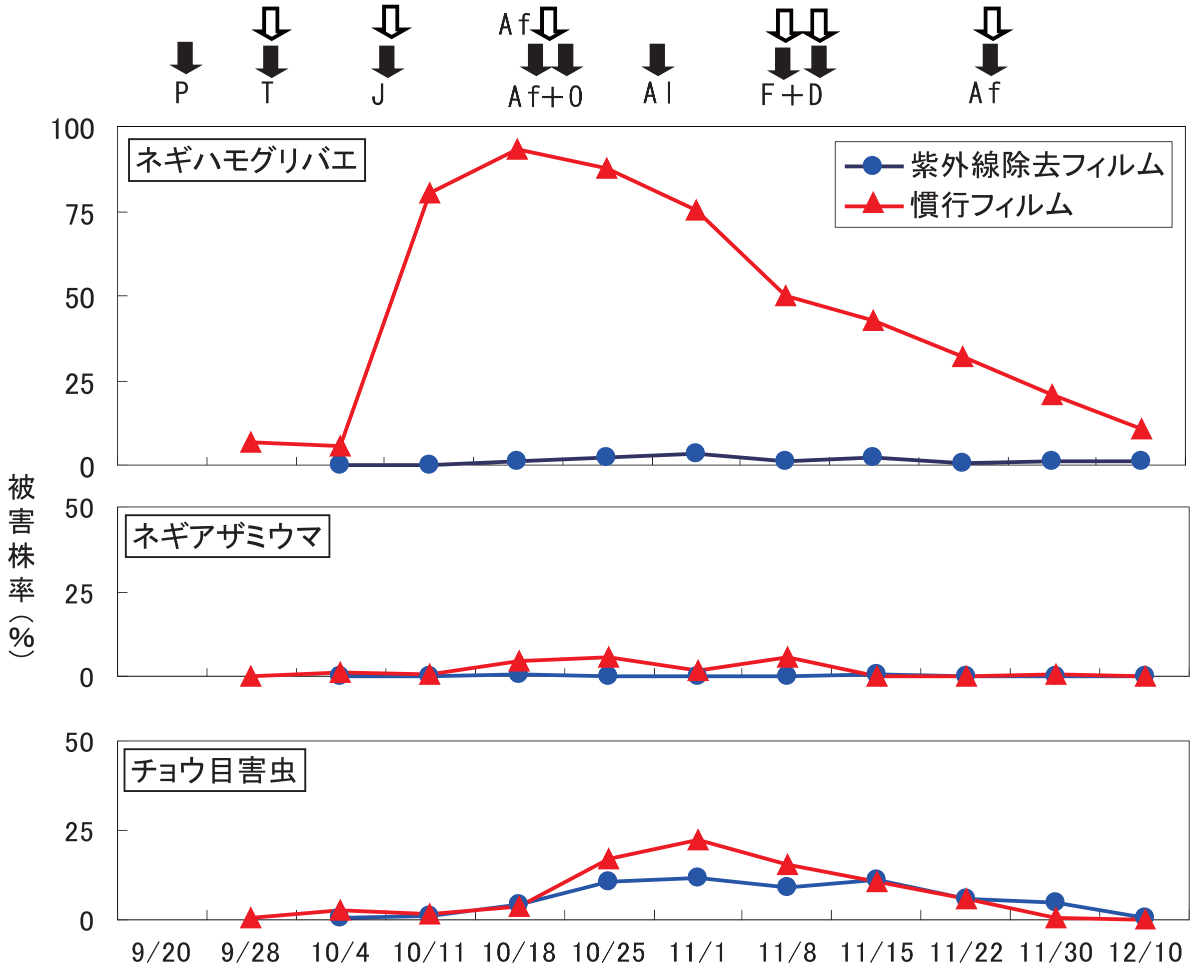

図１　紫外線除去フィルムを核とした防除体系の葉ネギ害虫に対する防除効果
（平成19年、朝倉市現地ほ場）

注）１．⇩は試験区の薬剤を、⬇は慣行区の薬剤散布を示す。
　　２．P：プレオフロアブル（アザ、チ）
　　　　T：トルネードフロアブル（チ）
　　　　J：ジメトエート乳剤（アブ）
　　　　Af：アファーム乳剤（チ）
　　　　O：オンコルマイクロカプセル（アザ、ハモ）
　　　　Al：アルバリン/スタークル顆粒水溶剤（アザ、ハモ）
　　　　F：フェニックス顆粒水和剤（チ）
　　　　D：ダントツ水溶剤（アザ、ハモ）
　　　　※(カッコ内）は（ハモ）：ネギハモグリバエ、(アザ)：ネギアザミウマ、(アブ)：アブラムシ類、(チ)：チョウ目害虫に対して農薬登録があることを示す。